

ひるがみ

第 79 号

令和 2 年 2 月 10 日

発行

障害者支援施設
阿智温泉療護園

社会福祉法人 下伊那社会福祉会

〒395-0304

長野県下伊那郡阿智村智里昼神

TEL 0265-43-3172 FAX 0265-43-3173

ホームページ

<http://achion.com/ryougo/>

忘年会

十二月十八日。忘年会当日です。例年よりも準備期間が短くなってしまうしましたが、実行委員全員で準備をしてきた集大成です。

当日は利用者の皆さんもソワソワ…。皆さん

ん待ち遠しい様子でした。時間になり、林宮司を見るとそれまで眠そうだった人も目をパツパツ開け、楽しそうに参加してくれました。林宮司によるお被いを真剣な表情で受け、職員の間、白おかしい余興に笑い、一年間の写真を懐かしそうに見る…。皆さん思



南棟からはパブリカダンスを披露！



北棟からはヒゲダンスを披露！

い思いに楽しんでくれたようでした。

休憩を挟んで、待望の食事の時間。お重の蓋を開けると色鮮やかなお弁当に思わず顔が綻んでいました。食べる前に職員の思いを聞き、思わず涙する利用者さんも。皆さん「美味しい」と食べてくれました。

忘年会当日を迎えるにあたり、利用者の皆さんにも司会進行や飾りつけの手伝いをして

頂きました。当日が近づくと、「うまくできるかな…」と緊張している人、「やること一杯あって大変なのよ」と見せ場があり嬉しそうにしている人…。普段では中々見られない姿でしたが、当日は見事大役を果たして頂き感謝しています。

実行委員はもちろんのこと、当日は全職員の協力のおかげで利用者皆さんに楽しんでもらう事ができました。ありがとうございました。

(A・K)



とっても鮮やかなお重でした

語りべの会「ははき木」

療護園に毎月訪問して、紙芝居、お話など三話ほど、利用者の皆さんに聞いて頂いて、お話の間に話をしたり歌を歌ったりと楽しい時間を過ごさせて頂いています。

療護園に伺うようになって、早いもので三年になります。始めた頃は、利用者の皆さんも同年代の方が多かったのですが、今は私達より若い利用者さんばかりになりました。何回も聞いてくださった方の顔が見えなくなって寂しく思った事も何回もありました。前に聞いて頂いた話をする時など、あの方が好きだったなあと思ったりもします。一番年齢を感じるのは歌で



紙芝居の様子になります。

す。私達が歌ってきた歌を知らない利用者さんが多くなってきました。それでもどの年代さんあって、毎回一緒に歌って頂けるのは嬉しい事です。

毎回暖かく迎えて頂いてありがとうございます。いつも素直な反応が帰ってきて、一喜一憂です。おもしろい話に声をあげて笑って頂けると本当に嬉しくなりますし、つまらないような顔を見ると反省です。

おもしろい話、悲しい話、心がほのぼのとした暖かくなる話、怖い話、詩やエッセイなどのお話に入れば、テレビ、ラジオ、新聞などからタイムリーなニュース、スポーツの情報、花や鳥など季節の話などから、興味を持って頂けそうな、話し合えそうな話題を探し組み合わせます。これを今

は三人で交代でしていきます。感性は違いますし、それぞれの思いで多少の変化もあり、内容の幅も広がってきたと感じています。お話し合いでわかりやすく、楽しく聞いて頂けるよう心がけています。

私達は療護園に伺うたびに良い経験をさせて頂いていると感じています。これからも気持ちを持ち若く張って、アンテナを高く張って頑張っていきたいと思えます。利用者さんの皆さん、職員の皆さん、これからもお世話になります。よろしくお願いします。(ははき木 M・S)

介護員室だより

ふと気付くと介護員室前の廊下で静かにたずむSさん。「今日の配達はないですよ」と言うと、残念そうにうなだれてその場を立ち去っていきます。

毎日、日課で園内の書類の配達を行って



自分の仕事として頑張ってくれているのですね。 Sさんに感謝しながら、私も頑張らなくてはと思う今日この頃です。(Y・T)

栄養士研修会

十月三十一日と十一月一日の二日間、県の身体障害者施設の栄養士・調理職員研修会に参加させていただきました。日本酒について

の講義や施設見学の他、座談会や懇親会も設けられ、同じ職に就く方と交流できる貴重な機会でした。苦労していること、工夫していること、いろいろな思いを食事を交えなが

ら聞き、話すことができ、とても充実したひと時でした。また、研修会が開催された佐久穂町では台風十九号による被害の爪痕が未だに残っていました。河川の氾濫に

より崩落した道路など実際に見ることができ、改めて台風の恐ろしさを感じました。その時被災した施設の話しもお聞きでき、災害への備えを充分に行うことの重要性をひしひしと感じました。

(K・M)

最近感じた事について

ある日の新聞の投書欄です。『母の入所した施設は介護者の技術や知識が不足している様

ら発刊された「ハートで介護」の中の実践の心得の中で、思い入れ

だらけで、投書にあるような職員だったろうと反省しています。

最近の当園は、年齢層の幅も広がり、障がいの種類も多種になってきています。知識や

リスクマネジメントについて

「誤嚥・窒息アセスメントの作成」等を行いました。サービスの可視化を行う事で支援のリスクを確認でき、安全な介護に繋がっていると実感しています。

園では、利用者様の加齢による身体機能の低下が著しく、介護員

んざいな態度や言葉遣いも気になった。それでもそこに居続けなければいけない入所者の事を思うと切なくやるせない悲しみに襲われた』という記事が目にとまりました。

一九九九年、当園か

けでもダメという一節がありました。思いと技術、知識、気づき力は福祉の実践現場で良い仕事をする上で必須要素となります。今年度、節目の年を迎える私。約十九年前、介護初心者だった自分は、知識も技術もなく失敗

技術を得るとともに、ここで生活されている利用者様の視点で物を見る事が出来る職員、その人の背景や、心の動きを一緒に考えることが出来る職員になってほしいと願います。

(E・K)

リスクマネジャーとは、利用者様の安心と安全を守る適切なサービス提供を実現する事を目的とし、サービスの質を高めていける体制や環境を整えていく中心的な役割を担う人の事を言います。

誤嚥・窒息・転倒・転落・誤薬など利用者

支援にはリスクがつきものです。そのリスクを出来るだけ回避できるように要因を分析し業務手順書等の整備を現在、進めています。昨年は「トロミ茶の安定した提供手順書」

(H・K)

今年度の事業報告

園長 岡庭保人

当園は昨年四月、開設四十年を迎えることができました。これまでに重度の身体障害に苦しむ方の「砦」として、看取りまで視野に入れた利用者さんの生涯支援体制を築いてまいりました。

元年度は、頻発する災害に付随する停電時の備えとして「非常用発電装置」を設置しました。これにより、節



非常用発電装置を設置。

電すれば約三日間の配電が可能となります。

加えて、冷温配膳車、食器洗浄機の更新、ロングベッドの購入、加湿器の全個室設置などハード面の整備を進めると同時に地元中学校、高校生を招いての音楽鑑賞と交流会、家族交流会、記念日特別献立等利用者さんの生活に潤いをもたらすことができるよう日々努めています。

地元の皆さまのご理解があって初めて当園の運営は成り立ちます。今後ともご支援ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

初釜



初釜の様子になります。

一月二十三日にレクでは毎年恒例となっている福澤常務による初釜がありました。

利用者の皆さんはとても楽しみにされており、ほとんどの方が参加されました。「おいしい」との声とたくさん笑顔が見られました。ある利用者さんは最近食欲がなく、ご飯の時のお茶もあまり飲んでくれない日々でしたが、お茶を二杯いただき、そのあと特別に

抹茶オレも作っていた。とてもおいしかったのでしようね。

私たち職員もお茶会に招待していただきました。常務がいられたお茶は、普段飲んでいるお茶とは違って、とても香りがよく、きれいな緑色をしていて、一緒にいただいたお饅頭を食べながらのひとときは、忙しい日々を忘れるくらい幸せな時間でした。

(Y・K)



今年も常務にお茶を点てていただきました。

現況報告

令和二年二月十日現在
利用者 四十七名
職員 四十四名
(非常勤職員を含む)



おいしい抹茶と紅白饅頭でした

編集後記

今年度は災害が頻発し、災害の怖さを感じました。

幸いにも当園に被害は有りませんが、阿知川沿いに当園は有りますので、非常時への備えは十分に行いたいと思います。

